

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(大枝中学校)

1 平成27年度 重点評価項目

・授業改善 ・コミュニケーション能力の育成 ・豊かな心の育成 ・つながる力の育成

2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
						評価日	平成27年10月21日	評価日	平成27年10月22日
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校 評議員による改善 に向けた支援策
1	確かな学力	授業改善	・研究授業を年間7回を予定しており、9月までに3回を実施。	・分かりやすく興味が持てるように授業を工夫する ・基礎基本を徹底し、個々の学力の向上を図る。	⇒	・授業において、年度初めより「人の話を聴く」ことに重点を置き、本時の目標提示や分かりやすい学習課題を設定することで、少しずつだが生徒の変容が見られた。 ・全学年とも、学習確認プログラム等の結果から「話す」「書く」の力が伸びてきていると思われる。ただし2年生では、教科により成果に差が見受けられるので、改善する必要がある。	・まずは「本時のめあて」の提示することを徹底すること。 ・グループ学習での課題設定や全体の場で自分の意見を話す機会を増やすなど、授業のあり方を再確認する必要がある。 ・必ず授業の振り返りをするこ とで、本時の内容の深まりを目指す。 ・家庭学習など授業外の取組を進める。	⇒	・アンケート結果から、教科によって「授業がわかる」の項目において、その達成度に差異が見られる。特に、「あまり出来ていない」と「出来ていない」を合わせた割合が高い教科が気になる。 ・諸テストの結果から、一定の成果を得ていることは理解できる。
	コミュニケーション能力の育成	・すべての教科でグループ活動を取り入れ、他者との意見交流を中心とした言語活動の充実を図っている。	・生徒の聴く・考える・話す様子の変容観察。 ・学習確認プログラム等の結果。	・授業において、「他の話を聞く」が90%超、「協力して学習したり、他から学べる」が85%程度である。	⇒	・今年も地域でのボランティア活動に参加する生徒が多く、その取り組みの成果が見られている。 ・授業の中に、多くのグループ活動を取り入れていることが、体験活動の実施において効果を生んでいる。 ・道徳指導の中で、のぞましい「集団づくり」を意識した資料を開発していく必要がある。	・のぞましい集団、学級づくりに基盤を置き、道徳の授業で「命」や「もの」を大切にすること、「心を育てる」指導を充実させる必要がある。 ・各教科・領域において、グループ活動を意識した課題設定と授業改善を工夫する。 ・教職員が、子どもと触れ合う機会を持てる時間の工夫をする。	⇒	・他者との関係性を良好に保つためには、コミュニケーション能力の育成が大切である。 ・学校でのタイムスケジュールが慌ただしく、そうしたコミュニケーションの時間を学校生活の中で確保しにくいように感じられる。
	読書の習慣化	・朝読書の確実な実施 ・ビブリオバトルの実施	・平日の読書時間や図書室の利用状況(教科での聴き取り)	・前期は施設利用上の制約もあり、図書館の十分な活用ができていなかった。 ・全体として、昨年度12月時よりポイントが3%高くなった。ただし、1年96%、3年91%であったのに対し、2年は83%と昨年度より少し下がった。	⇒	・全学的な傾向でもあるが、上級生ほど携帯電話やインターネット等で生活習慣が乱れることが見て取れる。 ・行事への参加について、今年の学校祭を見る限りでは、3年生を中心として、全学年が一体となって取り組めた。	・教科指導のみならず、学活や道徳においても情報モラルを含め、生活のあり方について学習する機会を設ける。 ・学校祭での生徒たちの活動を評価し、さらに個々の自己有用感を高める取り組みを継続する必要がある。	⇒	・屋食の取り方に関してのご質問があった。学校給食やパンを買う子どもたちが、揃って食べはじめることが難しいようである。また、友達が早く食べ終わると、遅い子どもは途中で食事をやめるケースがあると思われる。
2	豊かな心	豊かな心の育成	・道徳年間授業計画に従った指導、及び系統的な人権学活の実施。	・いじめを許さない集団づくり。また、生徒とのふれあいや対話を大切にした特別活動の企画・実施。	⇒	・今年も地域でのボランティア活動に参加する生徒が多く、その取り組みの成果が見られている。 ・授業の中に、多くのグループ活動を取り入れていることが、体験活動の実施において効果を生んでいる。 ・道徳指導の中で、のぞましい「集団づくり」を意識した資料を開発していく必要がある。	・のぞましい集団、学級づくりに基盤を置き、道徳の授業で「命」や「もの」を大切にすること、「心を育てる」指導を充実させる必要がある。 ・各教科・領域において、グループ活動を意識した課題設定と授業改善を工夫する。 ・教職員が、子どもと触れ合う機会を持てる時間の工夫をする。	⇒	・学校生活の中では、休み時間が一番コミュニケーションが取りやすい場であるので、時間的な余裕を持たせてみてはどうであろうかとの助言をいただいた。 ・保護者等が「読み聞かせ」指導を支援することを通じて、さまざまな世代間での会話が增えるのではないかとのご指摘をいただいた。
	豊かな体験活動の実践	・全校一斉グリーン活動 ・ボランティア活動	・生徒自身の振り返りや学級での聴き取り	・学校内にとどまらず、地域に出て清掃活動をおこなうことが定着しはじめている。	⇒	・全学的な傾向でもあるが、上級生ほど携帯電話やインターネット等で生活習慣が乱れることが見て取れる。 ・行事への参加について、今年の学校祭を見る限りでは、3年生を中心として、全学年が一体となって取り組めた。	・教科指導のみならず、学活や道徳においても情報モラルを含め、生活のあり方について学習する機会を設ける。 ・学校祭での生徒たちの活動を評価し、さらに個々の自己有用感を高める取り組みを継続する必要がある。	⇒	・屋食を、学級で揃って食べ始めるために、食事時間をもう少し延ばしてみても、との助言をいただいた。 ・放課後等にゆとりを持たせることで、先生と子どもたちのコミュニケーションが有効に取れるとの示唆をいただいた。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立	・基本的生活習慣の確立を目指すとともに、授業開始・終了時間等を守ることを徹底する。	・規則正しい生活ができています。 ・時間を大切にしている。	⇒	・昨年度12月に比べ、「規則正しい生活」は3%上がり、「時間を大切に」も4%上がった。	・教科指導のみならず、学活や道徳においても情報モラルを含め、生活のあり方について学習する機会を設ける。 ・学校祭での生徒たちの活動を評価し、さらに個々の自己有用感を高める取り組みを継続する必要がある。	⇒	・屋食の取り方に関してのご質問があった。学校給食やパンを買う子どもたちが、揃って食べはじめることが難しいようである。また、友達が早く食べ終わると、遅い子どもは途中で食事をやめるケースがあると思われる。
	体力の向上	・運動を通じて体力を増進し、生涯スポーツ・体力向上活動を推進する。	・球技大会や体育大会等している行事に積極的に参加している。	・行事に積極的に参加できている割合が2%低くなった。	⇒	・ほぼ毎日ホームページの更新をおこない、保護者や地域の方々に学校の教育実践に関するメッセージを発信できていることが効果的である。 ・次年度のポスターセッション発表に向けて、校内での研究体制を確立する必要がある。	・学校の様子について広報するだけではなく、学習課題や内容、さらに今後の学校経営に関する方向性など、さまざまな情報を保護者や地域の方々に発信していくことが求められている。 ・研究部を中心としてポスターセッション指導のガイドラインを作成していきたい。	⇒	・配布プリントがある場合には、ホームページに掲載したり、メール配信を行なうなど工夫をおこなうことを確認。 ・アンケートを記入する時間の確保するために、たとえば事前に家庭に配り、懇談時に持参するなどの協力はできるとの助言をいただいた。
4	独自の取組	開かれた学校づくり(適切な行動・情報発信の充実)	・積極的なホームページの更新。 ・PTAや地域に対する情報発信と意見交換。	・学校ホームページへのアクセス数。 ・学校や生徒の様子がよく分かる。	⇒	・昨年度に比べホームページのアクセス数は平均して30%増 ・アンケート結果では前期より2～4%高くなっている。 ・合同研修が有意義かつ効果的であったとの意見が多かった。	・学校の様子について広報するだけではなく、学習課題や内容、さらに今後の学校経営に関する方向性など、さまざまな情報を保護者や地域の方々に発信していくことが求められている。 ・研究部を中心としてポスターセッション指導のガイドラインを作成していきたい。	⇒	・配布プリントがある場合には、ホームページに掲載したり、メール配信を行なうなど工夫をおこなうことを確認。 ・アンケートを記入する時間の確保するために、たとえば事前に家庭に配り、懇談時に持参するなどの協力はできるとの助言をいただいた。
	小中一貫教育の推進	・小中合同夏期研修会。 ・小中一貫SSH連携事業の推進。	・合同研修会後の振り返り。 ・SSHポスター発表会の振り返り。	・合同研修が有意義かつ効果的であったとの意見が多かった。	⇒	・昨年度に比べホームページのアクセス数は平均して30%増 ・アンケート結果では前期より2～4%高くなっている。 ・合同研修が有意義かつ効果的であったとの意見が多かった。	・学校の様子について広報するだけではなく、学習課題や内容、さらに今後の学校経営に関する方向性など、さまざまな情報を保護者や地域の方々に発信していくことが求められている。 ・研究部を中心としてポスターセッション指導のガイドラインを作成していきたい。	⇒	・配布プリントがある場合には、ホームページに掲載したり、メール配信を行なうなど工夫をおこなうことを確認。 ・アンケートを記入する時間の確保するために、たとえば事前に家庭に配り、懇談時に持参するなどの協力はできるとの助言をいただいた。